

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 美術館展示費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

岐阜県美術館 総務部 管理調整係 電話番号：058-271-1313

E-mail：c21801@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 135,408 千円 (前年度予算額： 133,480 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	133,480	41,144	0	10,544	0	0	5,139	0	76,653
要求額	135,408	35,637	0	21,731	0	0	1,000	0	77,040
決定額	135,408	35,637	0	21,731	0	0	1,000	0	77,040

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

岐阜県美術館の収蔵品を展示する所蔵品展示、所蔵品による企画展、国内外の作品による多彩なテーマの企画展等を開催するための経費を措置する。

令和5(2023)年度は岐阜市ゆかりのデザイナーであり絵本作家のわかやまけん展、福井県立美術館との所蔵品交換による名品展、岐阜市ゆかりの山田光が創立に関わった前衛のやきものの団体・走泥社の回顧展、現代美術家の先駆的な芸術を紹介する現代美術展、新収蔵品のお披露目展、アートとテクノロジーの先験的な融合を紹介する現代美術展などを開催し、県民のニーズに応えると共に、コロナ禍社会のもと、新たな生活様式における美術館の重要性・必要性を広く伝える。

(2) 事業内容

ア 所蔵品展示 展示室1にて展示替を行う。

	第1期	第2期	第3期	第4期
会期	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
展示替	6/19-26	8/7, 9/4	10/2, 10/31, 12/26-1/5	2/19, 3/20-31

イ 展示室2の活用 (独自企画展)

- ① 新収蔵品お披露目展 (仮称)
令和5年4月1日(土)～令和5年6月18日(日) 68日間
- ② 特集展示 (仮称)
令和5年7月1日(土)～令和5年9月3日(日) 56日間
- ③ 「IAMAS ARTIST FILE #09」展 (仮称)
令和5年10月17日(火)～令和5年12月24日(日) 60日間
- ④ アートまるケット (エを参照)

令和6年1月13日(土)～令和6年3月17日(日) 54日間

ウ 企画展 展示室3他にて（巡回展、独自企画展）

- ①「わかやまけん展」
令和5年7月21日(金)～令和5年9月24日(日) 57日間
- ②「福井県立美術館名品展」(仮称)
令和5年10月14日(土)～令和5年12月3日(日) 44日間
- ③「走泥社展」(仮称)
令和5年12月19日(火)～令和6年2月18日(日) 45日間
- ④「クロスアート3展」(仮称)
令和6年3月29日(金)～令和6年3月31日(日) 3日間
(令和6年度の4月1日～6月23日に続けて開催 72日間)

エ アートまるケット事業

- ①アートまるケット2023展示事業(仮)
令和6年1月17日(火)～令和6年3月19日(日) 54日間
- ②アートまるケット事業「おうちに居ながら美術館」の継承・展開
令和5年4月～令和6年3月まで 事業継続
- ③アートコミュニケーター(愛称「～ながラー」)活動事業
令和5年4月～令和6年3月まで 事業継続
令和5年11月～令和6年2月まで 次年度新規～ながラー募集事業
- ④アーティスト・イン・ミュージアム【AiM】事業
令和5年秋、令和6年1月以降の2回開催
・作家が美術館に滞在し公開制作と作品展示を行う。

オ 企画展準備費

- ・令和6年度記念事業「山本芳翠・ルドン展」のための作品調査。

カ 11月3日文化の日秋祭り事業の開催

(3) 県負担・補助率の考え方

県民が等しく文化芸術に関わる機会を創出するものであり、県の負担は妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	1,687	講師謝金
旅費	11,236	打ち合わせ旅費、研修旅費、講師旅費
需用費	19,357	展示用消耗品費、会議費、印刷製本費、光熱水費
役務費	4,680	通信運搬費、保険料
委託料	83,703	作品輸送展示作業、パネル等ディスプレイ作成他
その他	14,745	開催経費分担金、使用料、備品購入費等
合計	135,408	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 事業主体及びその妥当性

県有施設の主催事業に要する経費を措置するものであり、県の関与が妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

県民が文化芸術に親しむ機会を充実させる。
優れた芸術に触れて学ぶ機会を提供し、新しい文化の担い手を育成する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						

○指標を設定することができない場合の理由

展覧会は内容や開催規模、時期によって動員数に大きな差があり、年度ごとに開催本数や期間も異なるため、達成度を図るような基準数値は存在しない。

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<p>新型コロナウイルス感染症による臨時休館を強いられる中、オンラインでの鑑賞やイベント等にいち早く取り組み、鑑賞者への新たなサービスの形を模索した。また、感染症対策を徹底して早期の開館が出来るよう努めた。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和 3 年度	<p>新型コロナウイルス感染症が収束しない中で、美術館の展覧会を待ち望み楽しむ鑑賞者の姿が見られた。アフターコロナの新しい生活様式に配慮しながら、企画展の開催や関連イベントにおける感染症対策を行った。また継続して、県内教育機関、福祉施設等との連携を重視し、活動に生かした。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和 4 年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	美術館は県民のニーズに答えて美術品を展示し鑑賞の場を提供するところである。郷土ゆかりの美術家から国内外の著名な作家まで様々な視点から展覧会を行い、広く県民の要望に答えている。また、文化庁等が示す国の文化政策方針の点からみても、美術館が社会から求められる機能は年々広がっている。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	コロナ禍の状況でも開館時には来館者が途切れず、社会において美術館が求められる役割を十分に果たしている。来館者へは、万全な感染症対策によって、安心できる状況での美術鑑賞の機会を提供している。また事業の一部オンライン化によって、来館できない層へも配慮している。館内外で行われる関連事業や展示等についても、事前申込制やプログラムの工夫で密を避けつつ実施し、参加者から好評を得ている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	通常年間4本の企画展と8回の展示替による所蔵品展示を行う。常に新しい視点での展示紹介を心掛けるとともに、所蔵品の活用や、新聞社や企業の協力協賛を得て内容、広報共に充実させる努力を行っている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 新型コロナウイルス感染症拡大対策によって、頻繁に臨時休館を強いられる状況下で、事業の突然の中止や変更に対応するため、スタッフの負担は非常に大きい。もともと館内外での活動は事業見直しで増やさない予定であったが、レジデンス事業、さらにはコロナ対策の応援で正職員が頻繁に派遣されるため、スタッフ数は日常的に足りない現状が続いている。また、リニューアル後展示室が拡張しており、令和5年度はその会場を通年でフル活動させるため、その分展示に以前よりも経費がかかる。さらに人件費や輸送費、展示等にかかる資材費などを含め、企画費等が異常に高騰しており、展示事業を行うためには予算の充実が必須である。	
---	--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

美術館の魅力を引き続き広く県民に周知するべく、一般に広く親しみのある絵本展、隣県との交流から企画された福井県の優れた文化を紹介する大規模展、知られざるやきもの前衛を紹介する共同企画展、世界の最前線で活躍する岐阜県ゆかりの現代美術家を紹介する企画展を行うと共に、新収蔵品のお披露目や所蔵品の特集展示を複数展開し、美術館コレクションの質の高さをアピールする。Art Award IN THE CUBE 2023、青少年美術展、円空大賞展等の県主催の事業に協力する。美術作品の紹介から作家の制作体験、アートコミュニケーターによるアートへの関わり方の新たな提案まで、新しい時代の美術館の幅広いあり方を提案していく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント
又は事業名及び所管課

【〇〇課】

組み合わせて実施する理由
や期待する効果 など